

博物館活動を支える学芸員～学芸員の専門分野～

岩手県立博物館には考古・歴史・民俗・文化財科学・地質・生物と6分野の学芸部門の職員17名がいます。

職員はそれぞれ各分野を担当していますが、一方で、得意な研究分野や特に関心を持っているテーマなどもっています。ここでは、17人一人ひとりについて自己紹介を掲載します。当館を利用される際、参考にしてください。

○考古

主任専門学芸員 佐藤 嘉広

・弥生時代の石器についての研究

東北地方の弥生時代に使われた石器がそれまでと同じようなものなのか、異なったものなのかについて調べています。石器の場合は、使われた時代を特定するのが難しいので、よく残っている遺跡を調査したいと思っています。

学芸調査員 佐々木 務

・遺跡から出土する動物遺存体の研究

縄文時代の貝塚などから見つかる、魚や動物などの骨や貝殻を調べ、昔の人たちがどんな魚や貝などをどんな風に食べていたかということに興味を持っています。

学芸員 高木 晃

・縄文時代集落の研究

縄文時代の人たちが暮らした住居や葬られた墓などを調べ、それらが時代や地域によりどのように変化しているかを考えています。



石包丁・胆沢町南都田(岩手県指定有形文化財)

○歴史

主任専門学芸員 女鹿 潤哉

・古代「えみし」の系統についての研究

古代「えみし」社会は4世紀前半を中心とする時期に成立し、7～8世紀に成熟期を迎え、10世紀には「和人化するもの」と「えぞ」とに分化したと考えています。

学芸調査員 時田 里志

・岩手の近世史の研究

学生時代は中世史を勉強していました。現在は江戸時代の古文書、古美術を担当しています。秋の企画展「南部と伊達」に向け盛岡藩と仙台藩の制度文化の違いを研究しています。

専門学芸員 齋藤 里香

・岩手の古美術の研究

3月まで、岩手県立美術館で近代美術の調査・研究をしていました。現在は、前近代の美術工芸品を担当しています。

学芸調査員 菅野 誠喜

・岩手の近代史の研究

明治～昭和の資料の調査・収集も行ってしています。



小野寺周徳《龍図屏風》(部分)

○民俗

学芸第二課長 阿部 幹男

・伝承文芸研究

主として、東北地方に伝わる社寺縁起や伝説と古典文芸の関係を調査研究しています。目下、東北の田村丸伝説を調査中で、そのスケールの大きさと、内容の奥深さを知って興奮しています。

学芸調査員 瀬川 修

・民家史を中心とした生活史、民家保存活用、建築歴史の研究

民家、特に南部曲がり屋の分類と歴史を調べています。そこで営まれたくらしや道具など住まい方も研究対象です。

学芸員 川向 富貴子

・民俗(人びとの暮らし)の研究

低湿地や山間地など、環境条件による生活の違いに関心があります。また、供養塔や御札にも興味を持っています。



「差し茅」 民家の屋根補修

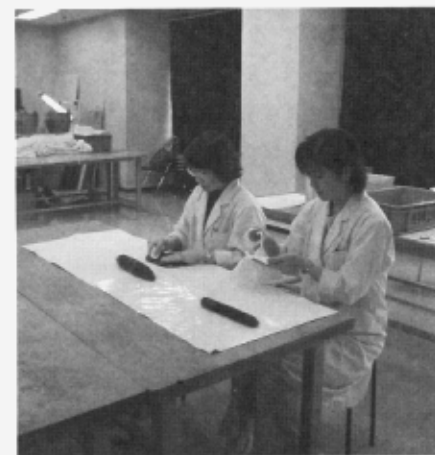
○文化財科学

主任専門学芸調査員 咲山 まどか

・ガラスや銅製品などの材質調査

・文化財の虫・カビからの保護

近年、木製等文化財を虫・カビから守る新しい考え方として言われている、「薬剤を使わず、資料を総合的に管理する」方法を試行しています。

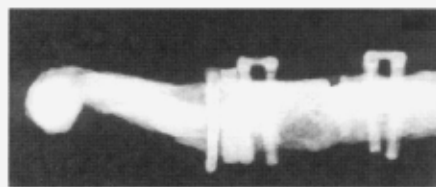


木製品の保存処理作業

主任専門学芸員 赤沼 英男

・博物館所蔵資料の製作技法と保存方法に関する研究

前近代の金属製文化財の内部構造と素材となった地金の製造方法の解明、色材料の製作技法の解明、および博物館資料の保管に適した湿度環境設定法を研究しています。



蕨手刀 X線写真

○地質

学芸第一課長 大石 雅之

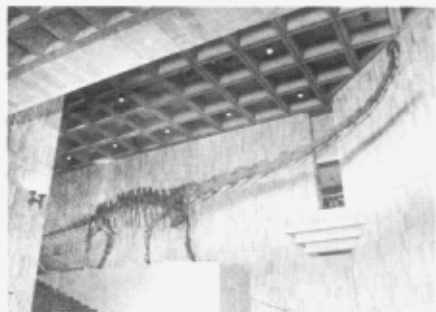
・鯨類化石の古生物学的研究

岩手の地質学・古生物学全般にかかわっていますが、特に本県産で学術上重要な新第三紀鮮新世の鯨類化石の研究を、現生種との比較を行いながら進めています。

主任専門学芸調査員 吉田 裕生

・岩手県を中心とする東北地方から産出する鉱物の研究

いままで産出が知られていない鉱物を見つけ、その詳しい性質をさまざまな分析を通して明らかにしようとしています。



マメンキサウルス骨格複製標本

○生物

学芸第三課長 藤井 忠志

・本州産クマガラ个体群の生息・生態調査及びその研究

この20年間、ブナ林の道なき道に分け入り、何度か死にそうになりながら、滅びゆく本州のクマガラを見守っています。今年がクマガラと会える、最後の年になるかもしれません。

学芸調査員 中村 学

・河川の水生昆虫を中心とする水生動物の研究

昆虫全般に興味を持っていますが、特に、環境指標としての水生昆虫の調査を行っています。

専門学芸調査員 鈴木 まほろ

・花の生態学、植物と昆虫の共生関係の研究

植物が子孫を残す仕組みや開花現象、また植物と昆虫の共生について調べています。そのほか、岩手県の植物に関する情報をいろいろと集めています。



クマガラ

博物館の仕事の役割分担

学芸部門の職員は、以上の様な学問的な専門分野とは別に、学芸第一、第二、第三の3つの課に分かれ、館を運営していくための役割を分担しています。これに管理部門も含め、それぞれが、支え合って博物館が成り立っています。

学芸第一課は、調査研究活動に関わることを担当し、「研究報告」や「調査研究報告書」などの出版物もここで担当しています。また、今進められている当館のリニューアルについても担当しています。

学芸第二課は、資料収集・保管が担当です。当館には、平成14年度末で約137,000件もの登録資料があり、このデータベースを管理しています。また、いわて地元学センター(これは当館のリニューアルとも関連しています)に関わる仕事もしています。

学芸第三課は、展示、教育普及などを担当しています。当館に訪れる一般の方々の窓口になることが多い課です。この「博物館だより」も担当しています。

各課のメンバーは、次のとおりです。

学芸第一課

課長 大石雅之
課員 女鹿潤哉、瀬川修、高木晃

学芸第二課

課長 阿部幹男
課員 吉田裕生、咲山まどか、
赤沼英男、中村学

学芸第三課

課長 藤井忠志
課員 佐藤嘉広、時田里志、
佐々木務、齋藤里香、
菅野誠喜、鈴木まほろ、
川向富貴子